

関東ブロック
連絡会

第12回

海外交流 モンゴル視察団



連合関ブロ第12回海外交流・モンゴル視察団が、9月11日～18日の日程で実施され、連合群馬は電機連合・星野さんとともに参加した。

モンゴルはあのチンギスハーンの国として、また、大相撲の朝青竜の故郷としても知られ、最近では日本人観光客の隠れた人気スポットにもなっている。大平原に馬などを追う遊牧民の暮らしは、チンギスハーンの時代から殆ど変わらぬ生活であり、一部を除けばTVや電気もないゲルの暮らしに、日本人として何か懐かしさを感じるところでもある。

CMTU(モンゴル総同盟=労働者の約半数の42万人を組織し、12産別・21地方組織で構成)との交流では、日本などを手本とした経済発展に向けた熱意が感じられたが、失業率は4.5%(非公

式には17%)であり、90年の民主化以降の経済改革が思うように進まぬ様子もうかがえた。労働者の平均月収は62ドル、国民一人あたりGNIは500\$と日本の1.6%であり、人口240万人のうち30%の人々が貧しい生活を送っているとの説明もあった。

世界的な環境異変なのか今年は早魁で秋の訪れが早いとのことで、首都ウランバートルは既に晩秋の感があり、社会主義時代のインフラが余計に色褪せた物と写った。また、地方では車社会の到来により、遊牧民の移動とともに道ができ草原が壊されており、広大な国土と遊牧という生活の中で、環境と調和した近代化には大変な努力と時間が必要であることを感じさせられた。

モンゴルに対し日本のODAや民間レベルの支援も行われているが、訪問先であったナイスハート基金が支援する障害者幼稚園や小学校などの視察を通じ、私たちが出来ることは大変多く残されていることを実感した旅でもあった。



北方領土返還要求! 2002 平和行動 in 根室



連合は、9月19日・20日の2日間、「北方四島の一括返還を実現し、日口の平和と友好を築こう!」をメインスローガンに、北海道・根室市で「北方領土返還要求2002 平和行動in根室」を開催した。連合群馬は、佐藤和人副会長を団長に、6産別・2地協から計13人が参加した。

9月19日に開かれた「もつと知ろうヨ!北方四島」と題す



るフィールドワークには、北海道外の人を中心に、全国から約750人が参加した。5つのセミナーが前・後半2回にわたり開かれ、連合関東ブロックは、前半を北連協事務局長・児玉康子さんの「四島の今を知ろう」というセミナーに参加し、後半は各自が自由にセミナーを選択した。2つのセミナーに参加することにより、北方領土の現状や歴史的経過、日口交渉の現状等を、元島民や専門家から聞くことができ、大変勉強になった。

9月20日の平和ノサップ集会は、北海道の仲間も駆けつけ、1500人の参加のもと開かれた。草野・連合事務局長は「北方領土返還は私たち国民の課題。しかし、一部の政治家・官僚・業者による汚職・不正と二島返還論により、返還運動は大きくねじ曲げられてしまった。運動を今一度立て直し、職場や地域でしっかり取り組もう」と主催者あいさつをした。

一連の行動に参加することにより、北方領土は法と正義に照らし日本固有の領土であることの理解を深め、職場や地域で返還運動に取り組むことを誓い合った平和行動だった。

